第１回徳島市まちづくり総合ビジョン推進評価委員会　会議録（要旨）

日　時　　平成２９年８月１日（火）　午前１０時～午後０時１５分
場　所　　徳島市役所８階　庁議室
出席者　　委員７人、第一副市長、担当部局職員、事務局

１　第一副市長挨拶

２　委員紹介

（副市長退席）

３　委員長・副委員長選出

徳島市まちづくり総合ビジョン推進評価委員会設置要綱第４条第２項の規定に基づき、委員の互選により、山中委員を委員長に選出。
同要綱第４条第４項に基づき、南委員を副委員長に指名。

４　基本目標「おどる」に属する施策の評価について

（事務局）
「参考２　ＰＤＣＡサイクルの流れについて」に基づき、評価に先立ち、本委員会の位置づけを説明。
施策評価の概要、基本目標「おどる」まち・とくしまの概要、「おどる」に属する施策の事前評価の概要について説明。

（委員長）
最初に、事前評価を担当していただいた委員から、事前評価のご説明や特に気になる部分など一言いただきたい。

（委員）
各事業がそれぞれ繋がっており、１つの大きなテーマの基に、まとまっている印象がある。
最も良いところは、細かいところまで色々な施策の目が行き届いている点である。
気になったところは、発信力が弱い点であり、知らないことが多くあった。

（委員）
委員と同じで、全体的に網羅され、行き届いた印象がある。
その一方で、目標や数値は大切になってくると思うが、その先に市民にどう繋がっていくのかが見えにくく、事業を実施した後でどうなっていくのかが、あまり市民に届いていない。このことから、せっかく事業を実施しても、市民の盛り上がりに結びついていないのが課題ではないかと思う。

（委員）
発信力が不十分ではないかと自分も感じた。
例えば、自分はＳＮＳをよく利用するが、眉山山頂の事業を検索しても、フォロワーが少なかった。
若者はよくＳＮＳを活用しているので、ネットを通じた情報発信力を強めると、若者も市の事業が充実していることを、より認識しやすくなるのではないか。

（委員長）
発信力や市民にどう伝えていくかといった意見が出たが、そもそも目標や数値自体がこれでいいのかといった印象を持っている。

施策７－１　都市ブランドの創出

（委員）
「ＬＥＤアートフェスティバルの開催」の目標「フェスティバルの来場者に占める県外客の人数の割合」について、全国発信を目指しているようだが、目標値は１０％でいいのか。また、どのように工夫していくのか。どのように数値目標を測っているのか。

（担当部局）
まず、全国発信をどのように工夫していくのかについて、お答えしたい。今年度から県市協調して実施していこうとしているところである。例えば、県であれば東京本部・大阪本部があるので、そこを活用して全国発信することができる。市・県それぞれのツールを活用して、情報を発信していく。また、海外にも目を向けたいと考えており、県は上海事務所があるので、そこを通じて、様々なプロモーションを展開したい。
次に、目標値について、計画策定時に１０％と決めたときは、市単独で３年に１回の予定であったが、今回から、県市一緒に行うということでスキームが変わってきているため、今後は実行委員会において、この数値目標についても検討していく予定である。
数値の計測の仕方については、観光庁が示している方法に基づき計測しており、3 拠点、1,200 人程度のアンケート調査によるものである。

（委員）
県外客の滞留時間は多分長いように思うが、これらの人が、このイベントを何のメディアで知ったかが重要ではないかと思うので、その分析が必要である。
今回から県と一緒に行うのであれば、その部分の戦略をきちんと立てられる方をアドバイザー等に付けて情報発信を行うべきであり、全国メディアにどれだけ取り上げられているのかも、きちんと計測できるようにした方がいいのではないか。
コンテンツはとても良いのに、ほとんど全国メディアに取り上げられず、県外に伝わっていないのが勿体ないと思う。

（担当部局）
情報発信については、ご指摘のとおりである。
先日の実行委員会 広報部会においても、県民・市民ひとりひとりに対するＳＮＳを通じた呼びかけは、効果が強いという話が出たところであり、そういったことも踏まえながら、今後、情報発信を検討していきたい。

（委員）
　市民的ＳＮＳの広がりだけではなく、もう少しプロを入れていかないと。そういった経費も、しっかりと考えられた方がいい。

（委員）
　「ＬＥＤアートフェスティバル」は、イベント期間中に集中的にお金をかけているが、その一方で新町川沿いに常設的なＬＥＤの整備が進んでいる。
　イベントの時だけではなく、常設的なものの整備を進め、いつでも楽しめる環境ができるといい。イベントは集大成として実施し、常設のＬＥＤを核とした方が、費用対効果はいいのではないか。
　ふれあい橋のＬＥＤなどを今はＰＲしていないので、県外の方も知らないと思うが、１つのエリアにまとめて、県外の人（観光客）が、いつ来ても徳島市でＬＥＤを見られる環境づくりを進めた方がいい。

（委員）
　それも発信力の問題であり、見せ方でその魅力が全然変わってくるので、若手芸術家を活用して見せ方を工夫するなど、そういった面も見直してもらえたらと思う。
　ふるさと納税は、市全体で見ると赤字と聞いているが、徳島市は、今後もどんどん促進して、競争を勝ち抜いていかなければと考えているのか。

（担当部局）
　現在は流出の方が多い状況にあるが、積極的に徳島市らしいものを打ち出していきたいと考えている。

（委員）
　企業を増やすというのも方法だが、商品だけではなく体験など、お金ではない価値を提供する工夫をしてもいいのではないかと感じている。企業の中にも、そういったことを理解していただき、創出してもらえる企業があるといい。

（委員長）
　評価は「Ｂ」とする。

　～異議無し～

施策７－２　計画的な都市づくりの推進
（委員長）
　事業の状況を見ると、計画策定や検討中などが多く見られ、粛々と進めている印象であるが、事前評価は全員「Ｂ」となっている。

（委員）
　シートの進捗状況など全体的に前向きに書かれている印象があるが、中身を見ると検討中であったり、現在進めているところという状況が多く評価が難しいと感じた。
　例えば、「公共交通不便地域の減少」について、成果・課題で３地区で地域説明会を

開催したと書かれているが、意見の内容がどうであったか、その対策についてまで、盛り込んでいく必要があるのではないかと思った。

（担当部局）
　地域説明会については、川内、国府、上八万の３箇所で行ったが、地域が主体となる交通の運行の希望が１箇所であった。今年度は、市とその地域が一緒に検討しているところである。

（委員）
　希望とはどのようなものか。

（担当部局）
　具体的には、応神町のように、地域が主体となってバスを運行するものである。

（委員長）
　コミュニティバスと言って、市が補助しながら地域主体のバス運行を行うものであり、色々な運営形態がある。

（担当部局）
　実施主体は地域だが、地域が１００％主体となるのは難しいので、市が補助金を交付するなど支援を行っていくものである。

（委員）
　補助金を交付する場合の基準はあるのか。

（担当部局）
　補助要綱を定め、人数などの基準をつくり、それに基づき、応神町の場合は補助金を交付している。

（委員）
　コミュニティバスは、行政が丸抱えで運行すると誰も乗らないという事例が、全国的によくあるため、主体となる地域にきちんと利用してもらうことが大事である。コミュニティバスを欲しいという人は多いが、いざ乗るとなると不便なので、乗る人がいないという状況が見られる。
　こうした中、応神町の事例は、うまくいっている方だが、他の地域でも、どのように行っていくかが大事である。他都市でも頑張っている事例があるので、徳島市ならではの仕組みを考えていただきたい。
　また、民間バスとコミュニティバスの両方を運行している自治体では、その違いを上手く整理しておかないと、違いをどのように説明するか悩んでいる自治体も多くあるので、きちんと計画を立てて考えておいた方がいい。

（委員）
　公共交通機関の活用については、交通弱者への対応も確かに重要なことだが、夜間の

催し物があった時のバスの柔軟な対応も考えていく必要がある。
　催し物が終わってから、夜間に帰りの足がないという話もよく聞く。
　高齢化で車に乗ることができる人が減っていく中、車を持っている人しか利用できないでは困るので、夜間の催し物に参加できないということがないよう、柔軟なバスの運行体制をつくるなど対策を考えていただきたい。徳島市の活性化を考える際には、こういったことも考える必要がある。

（委員）
　公共交通の時間が少し延びると、外で楽しんでもらえる時間が延びて、地域の活性化に繋がる。需要を創出していくといったことも考える必要がある。

（委員長）
　評価は「Ｂ」とする。

　～異議無し～

施策７－３　観光・交流の促進

（委員）
　「眉山山頂の魅力アップ」について、自分も眉山ロープウェイを利用することがあり、眉山ロープウェイのアナウンスがアニメの声優によって行われるのは、ファンにとっては嬉しい特典なのだが、眉山山頂に上がっても、展示物もなく、モラエス館も閉館しており、景色を少し見て帰ってしまうことが多い。
　せっかくアニメとのコラボをしているので、山頂で特別な展示などを行えば、マチアソビ期間以外も利用する人が増えるのではないかと思う。
　現在は、風鈴の展示をしているが、ＳＮＳのフォロワー数が少ない。もう少し情報発信力を強めることを考えていただければと思う。
　また、モラエス館については、分断されていたものが１つになったのは良いことなのだが、中央公民館は遠いと思う。高齢者は地域の歴史に対する関心が高いが、高齢者には中央公民館は行きにくいので、一考していただければと思う。

（担当部局）
　眉山山頂に来られた方が、気軽に休憩したり、楽しめたりできるように取り組んでいきたいと考えているところであるが、現状は、眉山山頂の展望休憩施設が休館しており、活用方法等について関係団体と協議しながら検討を進めている。現在は施設の一部を活用して、休日に観光案内等を実施しているところである。
　マチアソビは、すごいイベントであると認識しており、アニメとのコラボについては、眉山山頂で、春はイベントを行っていないが、秋は色々なイベントを行っており、非常に多くの方で賑わっているところである。こういった活力を生かすことについても、今後検討していきたい。
　ＳＮＳに関するご指摘は謙虚に受け止め、工夫して考えていきたい。
　モラエス館は、今年度から中央公民館に展示場を一元化しているところである。まずは、移ったばかりであるので、今年度の利用状況の推移を見てから考えたい。現在は、観光資源として活用しているが、文化遺産・国際交流の観点もあり、多方面から検討を

進めていきたい。

（委員長）
評価は「Ａ」とする。

～異議無し～

施策７－４　文化財の保存と活用

（委員）
徳島市に長年住んでいるが、この施策で掲げられている文化財で知っているところが１箇所しかない。
徳島が阿波藩を中心にして栄えた城下町という大きな歴史的なことは分かっているのだが、歴史的なものが、今にどう繋がっているか、それが住んでいても見えてこない。
例えば、京都など古い都市ならば、〇〇跡など石碑や看板が立っていたり、パンフレットなどに詳しく残っていたりするようだが、徳島市は、それらを示すものがどこにあるのか分からず、あまりストーリーが見えてこない。
長年住んでても見えてこないので、県外から来た人は尚更そうであると思われ、徳島市に来ても、見に行くところがないということになってしまう。

（委員）
活用していくことを、強く示されているように感じたが、どのように活用していくかが、あまり見えてこない。活用が進んでいけば、市民の認知に繋がっていくと思うのだが、保存して活用するまでの道筋が見えない。

（委員）
自分も文化財の認知度が低いと感じるが、住民への周知が大切だと思う。
市民が継続的に関心をもつようにするためには、若い頃から文化財に対して関心をひく必要がある。例えば、大学との連携は、一考の価値があるのではないか。
三河家の活用については、活用の一例を示してもらえれば、もう少し関心をひくことができると思う。

（委員）
「見える化」をどのように行うかが重要である。
三河家は、耐震化に向けて、保全修理のための計画をたてている状況だと思うが、外からは分からない状況になっている。改修を行っている間も関心を持ち続けてもらうために外へ情報を出してほしいと思うが、検討している段階なので、なかなか難しい。全面改修しなければならなくなり、その間、使えなくなったが、三河家はとても印象的な建物なので、苦労されていることは分かるが、なんとかＰＲを頑張っていただきたい。

（委員）
徳島は古い建物があまりないが、残っているものを上手く活用してほしい。例えば、ひょうたん島クルーズと上手く連携して、三河家の前に船が停まるなど、他の分野の観光資源を組み合わせて、シティプロモーションを上手く展開できるといい。

徳島市は、阿波おどりの期間中に観光客が集中しているが、その期間だけではなく、いつ来ても徳島市を楽しめる状況をつくりだしていく必要がある。

（委員）
文化財は、国の色々な制度や指導等があり、しなければならないことが、どうしても出てくるので、その結果、市民目線でＰＲしていくことが、ごっそり抜け落ちている可能性がある。文化財保護の方に、どうしてもいってしまうこともあるが、上手く活用することについても、検討していただければと思う。

（委員長）
評価を決めたいと思うが、評価は分かれている。今の議論を踏まえて、「Ｂ」と「Ｃ」どちらにするか。

（委員）
「Ｂ」としてはどうか。

～異議無し～

施策７－５　やさしい都市空間の整備

（委員）
他の施策同様、それぞれ事業を行っているが、どのようにＰＲしていくかというところである。緑化推進の団体はスムーズに増えていっているのか。

（担当部局）
パークアドプト事業は、主に企業が中心に行っており、花と緑のまちづくり事業は、主に地域のコミュニティ団体が中心に行っている。後者は高齢化が進んでいるため、伸び悩んでおり、前者もなかなか増えない状況にある。

（委員）
参加した場合、企業名は出ているのか。

（担当部局）
公園の中に看板で企業名が出ている。

（委員）
公園の中に入らないと分からないので、もう少し外から見える程度に、してあげた方がいいのでは。もう少し企業の経営理念やメッセージなどが、見えるようにしてあげると、企業も参加する意欲が出ると思う。

（委員）
街づくりデザイン賞について、応募件数 100 件を目指しているのであれば、もう少し人目に触れるところに看板を立てるなど工夫してＰＲすると関心が高まると思う。

（委員長）
評価は「Ａ」とする。

～異議無し～

施策８－１　農林水産業の振興

（委員）
藍、ブランド化など、難しいことがたくさんあるような気がした。
徳島市の中心部から外れたところでは色々な良質な農産物をつくっているが、それが徳島市のというイメージがあまりなく、県のイメージがある。
藍の生産は確実に成果が出ていると書かれているが、徳島市の藍は盛んなのか。

（委員）
ブランド化もそうだが、６次産業化について、商との結び付きはあるように思うが、工との結び付き、イノベーションを起こすようなものは何かあるのか。
例えば、県は、徳島大学と連携して６次産業化に取り組もうとしているが、徳島市はどうか。

（担当部局）
徳島市は未だ徳島大学との連携はできていない。
藍については、食藍の取組を始めており、今後注目を集めるのではないかと考えているが、今後はその販路開拓に力を入れて、しっかりＰＲしていきたい。

（委員）
徳島市が藍を打ち出していくならば、何か特色を活かしていかなければ、県や徳島県内の他の自治体のイメージに受け取られてしまうので、もったいないと思う。

（委員）
何もかも少しずつ行うのではなく、徳島市は、他の市町村と連携して、徳島市は商業に力を入れて、藍を販売するメッカになるという考えもあると思う。

（委員）
藍について提案がある。
観光振興とも連携して、阿波おどりの期間に、徳島市中心の通りのたくさんの建物や川沿い全てに藍ののれんをかけていただく。市が全て行うと多額の予算がかかるので、市民参加でみんなで藍を染め、藍ののれんをつるす。
徳島駅前から阿波おどり会館まで藍で埋めつくすことで、見てもらえるチャンスが多くなり、徳島市は藍のイメージができるので、郊外で少し藍をつくるよりいいのではないかと思う。

（委員長）
評価は「Ｂ」とする。

～異議無し～

施策８－２　地域産業の振興

（委員長）

全体を見て、特に問題は見受けられないが、それぞれの目標値について、全国レベルでみて（同程度の人口規模の都市と比べて）、どれくらいの水準にあるかが分からない。

（担当部局）

その情報は持っていない。

（委員長）

同じような事業を行っている他都市、都市規模が似た他都市と比べて、どれくらいの水準かといったベンチマーク的な視点をもって、検討を進めた方が良いのでは。

できていることを示しているだけでは、問題が見えない状況になってしまう。

今後は、そういったことも検討してほしいという意見を添えて、評価を「Ａ」とする。

～異議無し～

施策８－３　商業・サービス業の振興

（委員）

重点事業を個別に見ると言っていることは、よく分かるが、トータルで見た場合に、どうしたいのかが良く分からない。

中心市街地をどうしていきたいかが重要であり、その後に数値的な目標などをあげていくべきではないかと思う。

（委員）

実際、住んでいるものの実感としては、進捗しているわけではなく、後退している印象がある。徳島市はどうしたいのか、徳島市が行わなくてよくて民間に任せるのであれば、規制を緩和するなど、何か対応していくべきである。

中心市街地のエリアが賑わうなど、目に見える形で変わっている感じがないと、県外から来た人を連れて行く場所がない。

土日に県外から来た人が行くのは、イオンではなく中心市街地であるような気がする。

そのような目線をもっと持って、固めた形で施策を打ち出してほしいと思う。

（委員長）

後で議論する横串の地方創生に関係してくるものであり、この話は、地方創生でせざるを得ないのだが、逆に言えば、この施策においても、連携する仕掛けをもっと考える必要があるのではないか。

地元からの声をどのように吸い上げるかを頑張っていただいて、それを他の部局の施策に繋げていくというコンビネーションをするべきだと思う。先進地と言われているところでは、そのような仕組みをつくって、取り組んでいるところである。

評価は「Ｃ」とする。

～異議無し～

施策８－４　働く環境づくりの推進

（委員）

ファミリーサポートセンター事業（病児・病後児預かりサポート）の周知は、どのようなことを考えられているのか。

（担当部局）

この事業は、市民の需要も高く、安心して働ける環境づくりといった点から良い評価をいただいている。

病児・病後児預かりサポートは、広域市町村と連携して、１０月からの事業開始に向けて準備を進めているところである。預かる側にとっても責任が伴うので、職員の研修や医療機関との連携を十分に行うこととしている。

また、広報パンフレットをつくるなどにより、周知を行っていきたいと考えている。

（委員長）

この取組は、病院の取り次ぎをしてもらえるというものである。

目標は、数値的に成果が出ているかどうか分からないものであり、評価できる状況なのかどうか判断しがたい面もある。

先程、話したベンチマーク的なものも検討してほしいという意見を添えて、評価は「Ｂ」とする。

～異議無し～

施策９－１　文化・芸術活動の振興

（委員）

この施策で最も関心が高いのは「新ホールの整備」であるが、これはホールだけの問題に止まらず、文化・芸術以外のまちづくりにも関わることなので、一面だけを見るのではなく、トータル的に考えていただきたいと思う。

（委員長）

評価は「Ｂ」とする。

～異議無し～

施策９－２　スポーツ・レクリエーション活動の振興

（委員）

体育館整備事業の進捗状況が進んでいないので、評価を「Ｃ」とした。また、陸上競技場についても、成果・課題で「２８年度内の完了が困難となり」とあるが、今後によっては、さらに後ろ倒しになっていく可能性も考えられるので、どうしてそうなったかを点検し直すことが重要になってくると思う。

（委員）
体育館は、全国大会が開催できないとあるが、どのような大会が開けないのか。

（担当部局）
プロスポーツの場合、観客席の大きさ等の要件があるので、開けない場合がある。
全国大会についても、競技団体の要件に合わないものは、開けない状況にある。

（委員）
体育館は、計画の策定にこれから３年かかり、その後に予算がつくかどうかも分からないという状況である。体育館は耐震改修が完了して、使用できる状態にはなっているのか。

（担当部局）
体育館は平成２７年７月から使用できるようになっている。

（委員長）
評価は「Ｂ」とする。

～異議無し～

施策９－３　生涯学習の推進
（委員）
徳島市の生涯学習はどのようなコンセプトであり、何が目標なのか。
最近は、第二の人生を豊かにするために、もう１度学び直すことにより、新たな役割や社会の場所をつくってもらうなどのイメージがあるが、徳島市はどう考えているか。
生涯学習の施策ではあるが、真っ正面の事業が並んでおり、何を目指しているのか知りたいので聞いたところである。

（担当部局）
社会教育法に定められており、青少年教育、高齢者教育、スポーツや文化活動など広く色々なものが絡んでくる。

（委員）
趣味もマーケティングと思えば、働いている人はなかなか時間がとれないので、中高齢者と若者の２大マーケットのニーズがある。その中で、照準をきちんと合わせたイベントや事業を組んでいけば、一定の成果があると思う。
徳島市には、公民館やシビックセンターなど歩いていけるところに学べる場がたくさんあるのは、良いことであると思う。
ただし、今後はニーズをリサーチした上で、もう少しする内容を絞っていけばいいと思う。受講生が将来講師になってもいいと思うので、コストをかけずに循環する、集まる場になれれば、「生涯学習」はとても魅力的なものになる。

（委員）
　生涯学習については、おそらく、これまでコミセン単位で行ってきたと思うが、それが今は飽和状態、膠着状態になっていると思う。そんな中、新しく出てきたのが、上板町をはじめ全国に展開している「熱中小学校」である。「熱中小学校」のように、地域住民主体で運営し、地域住民が有料で参加し、それに見合ったものが与えられるという、住民パワーの生涯学習を行政が支えていくといった形もある。
新しい形の、自治体がバックアップする住民による生涯学習システムの構築も今後必要になるのでは。

（委員長）
　セカンドライフの活性化が重要であり、もう少しターゲットが見えているといいのではと思う。もちろん色々なターゲットがあってもいいのだが、それぞれが訴求するような生涯学習になるといい。シビックセンターなど色々な場で生涯学習があるのだが、このシートからはそれが見えないのが残念なところである。
　評価は「Ｂ」とする。

　～異議無し～

施策９－４　地域自治・協働の推進
（委員）
　新たな地域自治協働システムの構築とあるが、どのようなものを目指しているのか。

（担当部局）
　地域には高齢化など様々な課題があるので、地域のことは地域で考えていくという組織を新たにつくっていこうというものである。
　現在行っているのは、この事業は新しい制度なので、そのとっかかりとして、先日、モデル事業を行う地区を４地区選定した。徳島市が活動の補助を行うが、それを基に、地域の中で地域の課題を考えてもらい、今年・来年とモデル事業を実施してもらおうと、動き出しているところである。
　それを検証した上で、その後、どういった形でシステムを構築していくかを考えていこうとしている。

（委員）
　どのような団体が申請しているのか。

（担当部局）
　現在はコミュニティ協議会が中心だが、コミュニティ協議会だけで実施するのでは、広がりがないため、地域の中で企業やＮＰＯ団体も含めて活動してもらうことを前提に進めている。

（委員）
　コミュニティ協議会が元気な地区、機能している地区が選ばれているのか。モデル地区はどの地区が選ばれたのか。

（担当部局）
選ばれたところは、中心になっていただける方が多いという面はある。モデル地区は、内町地区、沖洲地区、津田地区、上八万地区である。

（委員長）
コミュニティ協議会が様々なところを巻き込んで実施していこうとしており、とても重要な取組であると思う。
評価は「Ｂ」とする。

～異議無し～

５　政策横断型プロジェクト「徳島市未来チャレンジ総合戦略」の評価について

（事務局）
概要を説明

評価シートＮｏ．１　地域資源を生かした高付加価値産業育成事業
とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略

（委員）
とくしま食材ブランド化推進事業のＫＰＩは何か。
とくしまＩＰＰＩＮ店と徳島産食材取扱店舗増加数の関係は。

（担当部局）
徳島産食材取扱店舗増加数については、大都市圏で徳島市産の食材を使った店舗数ということで挙げているＫＰＩである。

（担当部局）
ＩＰＰＩＮ店（地産地消事業）については、地方創生では指標としてはあげていない。

（委員）
事業の成果・課題に「目標値を達成することができなかった」とあるが、目標値は何店舗であったのか。

（担当部局）
この事業は、総合ビジョンの施策８－１の評価シートに掲載していて、対外的には示されてないが２０２店舗という目標を掲げていた。新たに認定していっているが、閉店する店舗もあるため、実績は２０１店舗ということで１店舗及ばなかった。

（委員）
「ええもんあるでぇ徳島 Dining Tokushima」に２年位前にたまたま東京秋葉原で入ってみたことがある。にぎわってはいたが、一緒にいた東京在住の友人４人くらいの誰もそこにあると知らなかった。やっぱりＰＲが弱いかと思うので、具体的にＰＲイベントというのがどういうことをやっているのか、ＰＲの仕方をもう少し知りたい。

（担当部局）
「ええもんあるでぇ」は徳島県商工会連合会が主体的にやっており、そちらを活用させてもらっている。
商工会連合会もしっかりとＰＲ等されていると思うが、一緒になってＰＲを相乗効果で広げていきたい。

（委員）
アンテナショップなどに来られる方は、どういうチャンネル・情報で来られて、どんな人が来ているのか、というような情報はどこがつかんでいるのか。
何が売れているというだけでなく、そういった情報が結構重要と思う。

（担当部局）
アンテナショップの設置主体がどう捉えているかというのもあると思うが、設置主体から情報をいただきながら市としてもいろいろと取り組んでいきたい。

（委員）
会員とか、登録したらいろいろ情報をもらえるとか、そういう仕組みはないようだが、発信ということで、情報をいろいろ出していって、サポーターになってもらって、県内出身者とか、そういう人たちとの連携を図っていくような方法もあると思う。
いかに個人に対して訴求してつないでいくか。最近は郵便など使わなくても、スマートフォンでどんどん無料でつながるようになっているので、うまく情報を集めればいろんな情報を流せる。

（担当部局）
参考にさせていただく。

（委員長）
ぜひその部分を考えていただきたい。そういうサポーターの情報をきちっと集めていくというのが全部に関係してくるのではないかと思う。
評価してくれるようなサポーター群をたくさん作れば、そこから口コミで広げてくれる。

評価シートＮｏ．２　賑わいコンパクトシティ形成事業
（委員）
このシートの枠組みでいうと都市ブランドの話になるのだろうが、人口流出の抑制、社会増の実現というところでは、もっと移住促進、食のあっせん・住居のあっせん・教育に関する相談などが鍵になっていると思う。
いろいろとノウハウもできていていると思うが、その辺の連携はどうなっているのか。
市には、県のコンシェルジェのような移住関係の窓口はないのか。

（事務局）
統一した窓口はない。

（委員）
市町村によっては相当力を入れている。
教育の話、家の話など分野が広がっているので、担当部局がばらばらになってしまうが、ワンストップにしてあげないとどこに相談したらいいのだろう、という話になる。
社会増という部分ではその部分がごそっと抜けていると思う。
企業誘致もやっていると思うが、それも関係してくる。
この事業は、構成項目を変えることはできないのか。

（事務局）
交付金事業については、予算の計上時期によって、申請できる事業が決められている。
地方創生は、社会増や雇用創出などの大きな目標に向かって、市の事業を総動員していくべきところであるが、交付金事業は、地方創生の様々な取組の中で、国の募集時期に応じた交付金事業の目的に沿う取組により構成されたものである。

評価シートＮｏ．３　女性・若者活躍促進事業
（委員）
効果が見えにくく、即効性がないものなので、判断するのにある程度時間のスパンが必要ではないかと思う。
指標に出てきている若者の正規雇用者数は目標１０人に対して１人となっている。目標１０人というのがどうかというのはさておき、実績値が１人というのは、効果が出るまでに時間がかかるということの最たるものではないかと思う。
気になったのは、市高のプロデュース事業で、これはどうやって指標を判断するのか、「相当程度効果があった」というのは何をもって教育の効果を測ったのかがわからなかったので、教えてほしい。

（担当部局）
英語検定の合格率が少しずつではあるが上がっている。
また、男子サッカー部の公式戦の勝率、市高生の国際理解度が少しずつ上がってきている。

（委員）
創業支援とか、中小企業の奨励金とか、県のいろいろな支援、助成金はわかりやすく資料があるが、市が上乗せしているというのは、知らなかった。
質問にも書いたが、市役所でどれだけのスタッフがこの事業に関わっているのか、と思うと、民間企業では生産性ということが問題になっている。お金の問題だけではなく、人件費のことも考えると、重点施策を決めてそこに傾注する形で人材を集中しないと、ほとんど効果が出ないのでないかと思う。
特に、短期間で効果が出るものが少ない中では、やっぱり重点施策を決めて、発信を強めていかなければならない。お金ありきではなく、人をどう使うかが重要であり、正規雇用化者数の「１人」というのは生産性が低い。

（担当部局）
補正予算により、１０月からの実施で、事業の周知期間も短くなってしまったという

部分はある。今年度については、多くの利用をいただいていて、予算の９割ほどを執行しているような状況である。
　重点施策の決定という意見をいただいたが、現在職員は、非正規、女性活躍支援とか複数の業務を抱えており、その中で効率よく仕事をしていると考えている。意見を生かして今後工夫してやっていきたい。

（委員）
　創業促進事業について、事業の対象になった事業者のその後のモニタリングは行っているのか。何年事業を継続できたかとか。仮に１年で廃業してしまったら実績値といってもあまり意味がないものになってしまう。
　廃業している場合も、その理由をちゃんと把握しておくことが重要と思う。

（担当部局）
　創業後１年間はモニタリングを行っているが、その後はできていない。

（委員長）
　フォローアップが大事である。
　何年かしたらフォローアップしないと、どう活用されているのか、補助金がかえって毒になっている場合もある。

（委員）
　まだ成果の見えない部分も多いので、もう少しベンチマーク的な指標や、他都市との比較も入れてほしい。
　また、一番上の最終目標、これに対する貢献度みたいなところで事業を見直していただくというのも結構重要かなと、それぞれの個別の目標値は上がりました、ということになっているが、上の最終目標を見ると、雇用者数が５年間で１０００人、で１年間に２００人、これにどういう影響を与えているのか、というのが重要かと思う。
　実績値は４２２人とすごい数字が出ているが、ＫＰＩは２人とかになっているので、効果があるということであれば、それが見えてくるような見せ方にしてもらえるとよいのではないか。

６　閉会

（事務局）
　会議録の確認について説明